

2019年9月1日(日)朝10:10～ 主の聖霊降臨節第13、自由交歓会等  
9月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**生き返った少女**(25節)

聖書：マタイ 9章18～19、23～26節

<口語訳>

新約聖書13～ 頁

マタイ 9章18～19、23～26節

<新共同訳>

新約聖書16～ 頁

マタイ 9章18～19、23～26節

<新改訳第3版>

新約聖書16～ 頁

マタイ 9章18～19、23～26節

<塚本訳>

新約聖書91～ 頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
  - ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
  - ◇本日の**マタイ9:18～19、23～26**は、主が、会堂司の娘の死と生き返りを扱っておられる箇所です。
- ⇒共観福音書と言われます**マルコ**と**ルカ**では、**マタイ**との記事に幾つかの差が見れ、**マルコ5:22**では、娘の父が会堂司ヤイロであり、両福音書とも、少女12歳であり、**マルコ5:41**では、「タリタ(アラム語で『少女』)、クミ(アラム語で『起きなさい』)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、子供の手を取って語りかけ、少女は、起き上がって、歩きだしています(**マルコ5:42**)。 **マタイ**は、会堂司の信仰が前面ですが、**ルカ**は、ひとり娘であり、**マルコ**は、懇願したのに、「**御子イエス・キリスト様**」は、長血の女性にかかわり、遅れ、少女は死んでしまったので、彼は、苛立って、信仰をもって迎えたといより、

- 主が、積極的に動き、しかも、**マタイとルカ**は、「少女(娘)は、死んだのではない。眠っているだけである」と、言われたと記しているのです。
- ⇒この箇所を中心メッセージは、「**神の御子、主イエス・キリスト様の権威**」ある力が、少女を生き返らせ、来週見る長血の女性を癒し、次々出て来る「盲人の目を開き」、「吃音者の口を解く」わざを見せて下さっています。
- ⇒ツアラー、中風、熱病等や自然界の嵐を静める等の業を通して、「**主の権威**」あるわざなのに、それに与る者の信仰のように見せて下さっています。
- ⇒今日の箇所で大変なのは、「**神の御子イエス・キリスト様の目線**」と、それを取り巻く人々の目線の違いで、役人(会堂司)の目線では、「わたしの娘がたったいま死にました」ですが、「**御子イエス・キリスト様の目線**」では、「少女は死んだのではない、眠っている」です。
- ⇒私たちが、主のみことばに常に聴く必要があるのは、日常の目線が目に見える現実に生き、主の目線で見えていないからです。

本論；

◇本日、**マタイ書9章18～19、23～26節**から  
主の**使信**に**思い・心vous**をとめます。

◆**マタイ9章18～19節、23～26節**；使徒  
**マタイ**は、**神の権威**が、「少女は死んだのではない、眠っている」と、宣言させていると、「**罪人**(眠っている者)」である**事実**(24節)を直視させ、「起きて、歩け」と、「生きる」ことの意味を示しています。

◇**18～19、23～26節**；塚本訳◆**役人の娘と長血の女**

「18 こう話しておられると、そこに一人の(礼拝堂の)役人が進み出て、しきりに願って言った、「わたしの娘がたったいま死にました。それでも、どうか行って、手をのせてやってください。そうすれば生き返りますから。」

19 イエスは立ち上がって彼について行かれた、弟子たちも一しょに。

23 やがてイエスは役人の家に着いて、笛吹き男と騒いでいる群衆とを見ると、

24 言われた、「あちらに行っておれ。少女は死んだのではない、眠っているのだから。」人々

はあざ笑っていた。

25 群衆が外に出されると、イエスは(部屋に)入って行って少女の手をお取りになった。すると少女は起き上がった。

26 この評判がその土地全体に広まった。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**18～19節**；「こう話しておられると、そこに一人の(礼拝堂の)役人が進み出て、しきりに願って言った、『わたしの娘がたったいま死にました。』」と、「役人(会堂司)」は、「事後報告」をして、「『それでも、どうか行って、手をのせてやってください。そうすれば生き返りますから』」と言い、「懇願」しているのです。

⇒「それでも」のことばには、万が一にでも少しの可能性が残っていればという条件付きの信仰でいることが透けて見えてきます。

⇒マルコ9:22～24で悪霊に憑りつかれた息子を群衆のひとりが、「できれば、あわれんでください」と言うと、主は、「信じる者には何でもできるのです」と仰せになり、癒されました。

⇒私たちも、主を信じていますが、主のことばに聴く前に、目に見える現実に支配されます。

◇**23～26節** ; 「やがてイエスは役人の家に着いて、笛吹き男と騒いでいる群衆とを見ると言われた、『あちらに行っておれ。少女は死んだのではない、眠っているのだから』」、「人々はあざ笑っていた」、「群衆が外に出されると、イエスは(部屋に)入って行って少女の手をお取りになった。すると少女は起き上がった」、「この評判がその土地全体に広まった」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、喪主がユダヤの慣習で雇われた泣き女や笛吹き男など大勢の人々を身ながら、「群衆を外にだし」、「弟子のペテロ、ヤコブ、ヨハネとその子の父母」(**ルカ8:51**)だけ連れて、少女の部屋に入り、少女の手を取られたのです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、少女の生き返りの証人として群衆と切り離して、少数の人を側において、神のわざを見せて下さいました。

⇒主の弟子たちも、旧約の預言者たちも、癒しを行っていきますから、癒し自体は、特別のことではありません。

⇒本質的には、「**御子イエス・キリスト様**」は、人となって生きて下さいました。

- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、私と同じように死ぬ人生を生きて下さったのです。主にも、人生の終わりを背負って生きて下さり、少女に「少女よ、死んだままではいるな、今は生きる時だ、起き上がって生きよ」と、死を背負ってでも、今は生きてほしいと、主は願われました。
- ⇒来週見る長血の女性は、12年間、自分の死と直面して生きました。少女は、役人(会堂司)の優しさの中で、ひとり子として守られて何不自由なく生きて死に直面しました。
- ⇒長血の女性と少女は、同じ12年間でしたが、その人生は全く違いました。
- ⇒しかし、少女は、主が手を取り、長血の女性は、主の衣の房に触れることで、主に出会い、死を背負って生きる人生を与えられました。
- ⇒私たちは、どんな人生を生きて来たかは、問題はないのです。問題は、主に触れられ、あるいは、民数記115:38～40のみことばの律法規定に従い、触れなくなくても、見るだけで聖なる者とされる方法を選んだとしても、主とともに生きる人生を生きているかどうか、大きなことです。

## 結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
  - ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
  - ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓(説教)の箇所です。
  - ◇本日の**マタイ9:18～19、23～26**は、主が、会堂司の娘の死と生き返りを扱っておられる箇所です。
- ⇒共観福音書と言われます**マルコ**と**ルカ**では、**マタイ**との記事に幾つかの差が見れ、**マルコ5:22**では、娘の父が会堂司ヤイロであり、両福音書とも、少女12歳であり、**マルコ5:41**では、「タリタ(アラム語で『少女』)、クミ(アラム語で『起きなさい』)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、子供の手を取って語りかけ、少女は、起き上がって、歩きだしています(**マルコ5:42**)。 **マタイ**は、会堂司の信仰が前面ですが、**ルカ**は、ひとり娘であり、**マルコ**は、懇願したのに、「**御子イエス・キリスト様**」は、長血の女性にかかわり、遅れ、少女は死んでしまったので、



彼は、苛立って、信仰をもって迎えたといより、主が、積極的に動き、しかも、**マタイとルカ**は、「少女(娘)は、死んだのではない。眠っているだけである」と、言われたと記しているのです。

⇒この箇所を中心メッセージは、「**神の御子、主イエス・キリスト様の権威**」ある力が、少女を生き返らせ、来週見る長血の女性を癒し、次々出て来る「盲人の目を開き」、「吃音者の口を解く」わざを見せて下さっています。

⇒ツアラー、中風、熱病等や自然界の嵐を静める等の業を通して、「**主の権威**」あるわざなのに、それに与る者の信仰のように見せて下さっています。

⇒今日の箇所で大変なのは、「**神の御子イエス・キリスト様の目線**」と、それを取り巻く人々の目線の違いで、役人(会堂司)の目線では、「わたしの娘がたったいま死にました」ですが、「**御子イエス・キリスト様の目線**」では、「少女は死んだのではない、眠っている」です。

⇒私たちが、主のみことばに常に聴く目線で現実に生きることです。

⇒ローマ14:8～9;

- 8 生きれば、主のために生き、死ねば、主のために死ぬのである。だから、生きるにせよ死ぬにせよ、わたし達は主のものである。
- 9 キリストが死んで生き返られたのは、死んだ者と生きている者との主になるためであるから。